

番傘川柳本社 6月句会

日時 令和7年6月1日(日)
会場 たかつガーデン
出席 64名
司会 森 茂俊
呼名復唱 中岡 千代美
記名清記 稲葉 良岩

走り梅雨のさなか、どこかほっとする光に包まれた一日でした。上本町のここかしこに紫陽花がほのかに色を深め、足元の湿り気にも六月の密やかな季節の気配を感じます。歩いていると初夏の湿気がまとわりつき、冷たい麦茶が恋しくなる。そんな六月一日の午後、あらためて“ここで会おうね”という小さな約束が心を寄せ合う場を生んでくれました。

ました。にぎやかさの中に、どこかやさしい静けさも宿るひととき、いいなあ、本社句会は。

今回の初出席は吉野一心さん。四月から三か月続いて新しい方と出会える嬉しさをいただきました。出会いと繋がり、そのどちらにも迷いなく感謝の気持ちを覚える、そんな六月句会でした。

席題 約 束 大久保眞澄 選

約束はしませんきつと参ります
メロスだから約束破ることはない
地球との約束人は反故にする
停戦の約束いつも空手形
プーチンの引き分け何の約束や
さまよえる民と約束された土地
騙されることは承知で貸してやる
約束をきっちり守り痩せている
美人薄命私は高須クリニック
初鯉いたたく禁酒反故にする
自分との約束守る休肝日
グメンなさい婚約反故は私です
二人してあの世に行こうシャボン玉

三好 聖水
片岡 加代
原田 正士
田中 利一
谷口 東風
阪本きりり
奥野健一郎
大堀 正明
正信寺尚邦
岩田 明子
大塚のぶよし
山藤 聖子
下林 正夫

綴帳が約束どおり降ろされる
お逢いする約束花はとうに散ったのに
来ない筈だよ約束は明日だった
さよならに今度またねとつく吐息
また会おうネ社交辞令を交わし合う
伝言板ワクワク燃えていたふたり
約束を破り虫歯がいたみまます
ハイハイ軽い約束案の定
約束を破る顔のない名刺
約束もしてない癌が入り込み
生きてたらねを付けてから丸印
約束の輪ゴム痛いという小指
親指に言わず約束した小指
不思議な人だピッタリに現れる
約束を忘れ出したらあの恐れ

神田 良子
岩田 明子
小川賀世子
鈴木のりお
原田 正士
荻野 浩子
西澤 知子
奥野健一郎
阪本 高士
松岡 篤
片岡 加代
湯澤 孝扇
八木 幸彦
中岡千代美
松岡 篤

農水省の約束あてにしています
書面にして言った言わんで揉めるから
約束をしたかどうかもおぼろなり
安請け合いですから手間な後始末
雨の日の約束カビが生えている
母さんとの約束だからお仏壇
約束が若さを保つカレンダー
あの世まで持って行けないものもある
約束に松竹梅のある浮き世
約束の芽をナメクジに齧られる
げんまんも人も経年劣化する
もう何本針を飲んだかわからない

西澤 知子
北川ヤギエ
大西 将文
北川ヤギエ
銭谷まさひろ
中岡千代美
田中 新一
野口 龍
吉富ひろし
谷口 東風
大塚のぶよし
大久保眞澄

梅雨晴れ間手品のように虹が出る
瀬川 幸子

宿題 梅 雨 下林 正夫 選

番傘に肩を寄せ合う温泉地

一年中梅雨湿りする夫婦仲

ただいまと部屋干しシャツにごあいさつ

雨ダレを凝視孤独が沁みてくる

予報士も共に嘆いて梅雨の空

雨音に隠れてあなた来る予感

花の色変えて紫陽花雨を待つ

梅雨最中相合傘の初デート

鬱の字がすらすら書けぬ梅雨のウツ

梅雨最中子等を見守る地蔵さん

雨の日は雨を喜ぶ苔の寺

梅ジャムが匂うキッチン梅雨晴れ間

空梅雨のままで終わった片思い

梅雨色のおちこち淡く花の寺

古傷が喋りはじめた走り梅雨

鮎解禁墨絵の中に竿が立つ

空梅雨にレインシューズが欠伸する

梅雨になるハイ全自動洗濯機

積ん読を崩すチャンスの梅雨さなか

雨に濡れ光り輝く木々緑

ドタキャンが痛いしとしと女梅雨

梅雨晴れ間棚田の月もまるいまま

クーラーの手入れ急がす走り梅雨

梅雨入りへ膝がしくしく愚痴こぼす

鈴木のりお

穂山 常男

松岡 篤

島田 握夢

大西 将文

井本 健治

小寺八重子

山田 恭正

古川 洋子

松本 柊子

柴田 園江

荻野 浩子

八木 幸彦

阪本きりり

稲葉 良岩

油谷 克己

吉富ひろし

植野美津江

岩田 明子

小寺八重子

柴田 桂子

湯澤 孝扇

沼田 捷二

正信寺尚邦

長雨が続き米櫃覗いてる

学童の傘カラフルに梅雨の朝

また明日やろうの明日が雨になる

梅雨が好き相合傘で初キッス

しとしとですます豪雨がこわい梅雨

そろそろ梅雨ねと母から枇杷届く

梅雨寒に悔やむ早目の衣替え

うっという梅雨の間もスクワット

体調がどうのこうのと梅雨の鬱

ワイパーもひと休みする梅雨晴れ間

一杯のはずがやらずの雨になる

椅子深く深くかけてもひとり梅雨

シリウスも月もどこかへ梅雨の闇

泣き言は梅雨の晴れ間に干しておく

梅雨晴れ間ダブル虹見て癒やされる

宿題 ほのか

柴田 桂子 選

お便りは手書きお人柄が匂う

婆さまのうつらうつらの阿弥陀経

秒針の動きほのかな午前一時

真相はほのか暮れてゆく一日

胸中のはのか炎になる予感

みずすの詩胸にぽおっと灯を点す

イケメンのオーデコロンは柑橘系

北川ヤギエ

林 ともこ

片岡 加代

倉 周三

穂山 常男

小川賀世子

吉富ひろし

西上 遊二

北川ヤギエ

奥野健一郎

片岡 加代

桑原すゞ代

大西 将文

菱木 誠

下林 正夫

岩田 明子

吉富ひろし

田中 新一

神田 良子

松本 柊子

原田 正士

成山きよし

姑が来ていた伽羅香がほのか

和尚からほのかに臭う般若湯

差しかけた傘に託しているほのか

紫陽花の揺れてほのかに亡母の影

会える日はあなたの好きなワレの香

どんどん美化される初恋への思い

駄菓子屋にほのかに残る昭和の香

父の本開けば父の匂いする

鬢付けはほのかの大里あっぱれだ

蒲焼きのタレ鰯うなぎになるほのか

喪服着た美女からほのかナフタリン

逢い引きの枕に君の香が残る

移り香は妻に癪癪引き起こす

残り香のほのかに香る亡夫の服

口振りに別れの予感漂わす

汗ぬぐう少年に若葉のほのか

固結びほどけた淡い恋でした

和風だしほのかに母はまだ達者

恋心ほのかぐらいがいいのです

人柄がほのかに匂う身のこなし

月明かりのほのかへ思い出すあの夜

ロックオンほのかに毒が匂います

うっすらとふるジェラシーの粉砂糖

諦めかほのかな笑みか観世音

荻野 浩子

西上 遊二

松本 柊子

西 美和子

中岡千代美

島田 握夢

大塚のぶよし

田中 新一

小川賀世子

西澤 知子

油谷 克己

こはりつよし

北 破竹

湯澤 孝扇

田中 利一

小川賀世子

神田 良子

植野美津江

西澤 知子

北川ヤギエ

片岡 加代

阪本 高士

稲葉 良岩

奥野健一郎

傘寿でもほのかに色香まだ女

倉 周三

微かな記憶を徘徊が辿り

島田 握夢

駅ベンチ涙の匂い残ってる

阪本きりり

なんとなくあなたに惹かれ半世紀

中岡千代美

失望の脇にほのかにある希望

銭谷まさひろ

僕はボクほのかに匂うこともある

本田 智彦

君のいた椅子がほのかにまだ温い

片岡 加代

仲直りできそう微笑んでくれた

岩田 明子

遠い日がほのかに過ぎる烏瓜

柴田 桂子

宿題 迷

う

大西 將文 選

ルービックキューブの赤がじゃまをする

阪本きりり

ねえどっち妻はとくに決めている

成山きよし

裏の裏読んで迷いが深くなる

穂山 常男

古古古米一周まわってそっと買う

鈴木のりお

再手術するかポックリ死を待つか

谷口 東風

迷子になった男が帰る母の胸

原田 正士

二杯目はやっぱり止める米が無い

岩田 明子

吊り橋の真ん中辺で迷う癖

林 ともこ

信号の黄色へ迷う春の靴

神田 良子

私利私欲八十路の迷い自嘲する

森 廣子

捨てようかやちよと待てちよと待て

岩田 明子

印鑑はその気印肉まだ迷う

正信寺尚邦

鉄の意志さえ迷わせる札の束

大堀 正明

迷え迷えきつとおもろい道がある

小山恵美子

深読みをしたら迷路に入り込む

山田 恭正

迷っても泣いても月はまん丸い

古川 洋子

迷い道抜けたらそこは向こう岸

田中美弥子

豆のつるネットの闇を信じたい

阪本きりり

老いの恋時間がないと砂時計

井本 健治

是々非々で決める迷うことは無い

北川ヤギエ

やさしさに触れて決心揺らぎだす

穂山 常男

枯れ果ててしまった五欲迷わない

荻野 浩子

好きにしていよいよ言われ迷いだす

北川ヤギエ

まあいいかそんな答えも君らしい

桑原すゞ代

迷ったら電話してねと言っておく

本田 智彦

迷ったら一番右と決めてます

田中 利一

迷うたら小さい方を選びます

神田 良子

決心し立ち上がるすぐまた座る

吉野 一心

三差路の迷いは原点に戻る

菱木 誠

妻一途魔女に迷った過去がある

柴田 桂子

A Iの助言に迷い深くなる

柴田 桂子

ストローの先で迷いと深くいる

柴田 園江

ため息に寄り添うような服を選ぶ

稲葉 良岩

バカヤロー春の裾が帰らない

阪本 高士

ローンクの炎が揺れて目が覚める

田中 新一

終着駅愛の迷い子踊る

松本 柎子

結末が見えて迷いが深くなる

菱木 誠

おぼろ夜のちよと迷子もわるくない

桑原すゞ代

想定外そんな迷路も抜けて今

小川賀世子

迷い惑わせる人間のやさしさ

田中 新一

迷うのはよそう青空が見えたから

林 ともこ

今日と明日その境目にある迷い

大西 將文

宿題 密

阪本 高士 選

心地良い秘密の密は蜜の味

中岡千代美

女子会の秘密男をメッタ切り

森 茂俊

動物園密林よりも住みよいか

田中 利一

秘密満載スマホはボクの小宇宙

大塚のぶよし

秘密ってとても悲しい色やねん

菱木 誠

密談を聞いてしまった秘書その後

山藤 聖子

交流を密ににんげん美しい

植野美津江

馬と人密ですメリーゴーランド

瀬川 幸子

止まり木の端は男の秘密基地

大塚のぶよし

内密の話みんなが知っていた

倉 周三

闇バイト秘密握られやめられず

こはりつよし

沈黙の密度に喉がひび割れる

稲葉 良岩

背伸びして覗いてみたい人だから

穂山 常男

密談をこっそり聞いていた金魚

荻野 浩子

ご近所に囲まれ無事に生きている

岩田 明子

ハゲ鷹のように群がる店仕舞い

吉野 一心

雑魚だから安心できる群の中

奥野健一郎

密会を重ねるドラマ盛り上がる
密林のような都会で生き延びる
密会の頃は素敵な人だった
袋とじ秘密の扉こじあける
共通の秘密キズナを太くする
密集の中で孤独をかみしめる
おでん鍋8人家族過密です
時を待つ胸に密かな活火山
三密のあれから逢えぬそれつきり
秘密基地遊んだ友は今いずこ
スケジュール過密なうちが華と知る
内密のはなしの好きなイヤリング
密林にさがしに行こう落ちた星
わたくしの寿命知ってる骨密度
密航船に乗ったその後を知らないか
どくだみの強い香りにある秘密
密談にぐさり釘さす鹿威し
遣伝子がぎしりつまる設計図
堰の底までのひそやかな時間
傾けた耳に秘密がこそばゆい
月下美人と密会の午前二時
坪庭に所せましと花の乱
ドローン千機未来を語るパーティーだ
大堀 正明
岩田 明子
吉富ひろし
中岡千代美
山田 恭正
大堀 正明
西澤 知子
原田 正士
荻野 浩子
西上 遊二
八木 幸彦
植野美津江
阪本きりり
銭谷まさひろ
瀬川 幸子
神田 良子
穂山 常男
阪本 秀子
阪本きりり
湯澤 孝扇
大西 将文
田中美弥子
阪本 高士

宿題 嬉し い 片岡 加代 選

数独も解けた鰻もうまかった
うれしいな世界一周夢洲で
白昼夢トムクルーズに逢えました
古古古米湯氣もおいしく炊き上がる
湧き上がる能登横綱の大的里
久しぶり手書きの便り読んでいる
長生きのおかげ孫からお盆玉
旅先で忘れたスマホ無事返る
失意の日薔薇より嬉し霞草
嬉しいよ優しい人に囲まれて
嬉しさを隠し切れないイヤリング
リスクリング新しい地図手に入れる
ミyakミyakが客もそこそこ嬉しそう
嬉しくてスキップをする心電図
藤つじこころも弾む赤い靴
五百円がボロリひさびさのスーツ
嬉しいと無理に言わせる父でした
野の花と会話ができた車椅子
熟睡の朝は鼻歌ついて出る
快復の兆し定時に腹が減る
キャッシュレスもセルフレジでもやりや出来る
自分へのご褒美今日は松にする
瀬川 幸子
植野美津江
西 美和子
菱木 誠
荻野 浩子
岩田 明子
大塚のぶよし
西上 遊二
吉野 一心
田中美弥子
井本 健治
原田 正士
本田 智彦
井本 健治
植野美津江
森 茂俊
田中 利一
大西 将文
田中 新一
正信寺尚邦
北川ヤギエ
山田 恭正

レモンの木初めて蕾つけました
金髪の人魚が泳ぐ無人島
犬だって嬉嬉と散歩の雨あがり
綺麗より若いと言われ嬉しいわ
アジサイが十輪咲いた咲きました
行きずりの犬が潤んだ目で見えるの
わらったら嬉しい話やってくる
塩焼きの鮎もニッコリ若竹煮
さりげなく重ねてくれた手の温み
昇給の中が皆より少し上
近ごろはちよつとミyakミyakしています
高齢者サロンべっぴんさんもいるのです
汗びっしょりそんな仕事を頼まれる
目を掛けてくれているようだ叱られる
おまけのスクラッチが当たっていました
塩漬けの株が少おしずつ上がる
わがままな風をやさしく受けとめる
叱らない日を書き溜めている手帳
遺産見てぐつと嬉しさ抑えてる
嬉しいと見るものすべて丸く見え
嬉しいことやってくるねビルゲイツ
嬉しいが偶にあるから生きている
本物のくまモンを見た目が合った
柴田 桂子
森 茂俊
小寺八重子
森 廣子
神田 良子
大久保真澄
田中 利一
銭谷まさひろ
山田 恭正
三好 聖水
阪本きりり
西澤 知子
柴田 園江
奥野健一郎
樋浦 桜竜
三好 聖水
阪本 高士
阪本きりり
松岡 篤
奥野健一郎
瀬川 幸子
柴田 園江
片岡 加代